

平成 24・25 年度大牟田市自然環境調査報告書

諏訪川河口区域・岬町塩性湿地区域 調査



岬町塩性湿地区域

平成 26 年 3 月
大 牟 田 市

はじめに

本市では、自然環境の保全を重要な課題として本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民の啓発に資するために自然環境調査を行っています。

本報告書は、平成 24、25 年度に、諏訪川河口区域・岬町塩性湿地区域の自然環境調査を実施したものを取りまとめたものです。

目 次

1	調査目的	1
2	調査実施の期間	1
3	調査区域	1
4	調査分野	1
5	調査方法	2
6	調査結果	3
(1)	魚介類	3
(2)	植生・植物	8
(3)	鳥類	14
(4)	こん虫・クモ類	16
7	まとめ	20

1 調査目的

本調査は、自然環境保全の基礎資料とするとともに、市民・事業者等の啓発に資するため、実施した。

2 調査実施の期間

以下の日程で2回実施した。

第1回調査：平成24年7月21日（土）

第2回調査：平成25年10月中旬から下旬に実施

3 調査区域

本市における自然環境調査は、平成11年度から13年度にかけて全市的な調査が実施されて以来すでに10年以上経過している。これ以降、河川河口域や塩性湿地の自然環境調査は実施されていない。このようなことから本調査では、諏訪川河口及び岬町塩性湿地の現状を把握するため、以下の地図の点線の枠内を調査区域と定め、調査を行った。

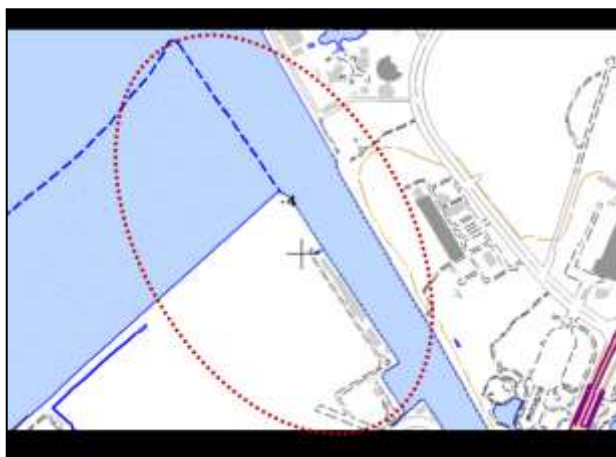


図1．諏訪川河口区域

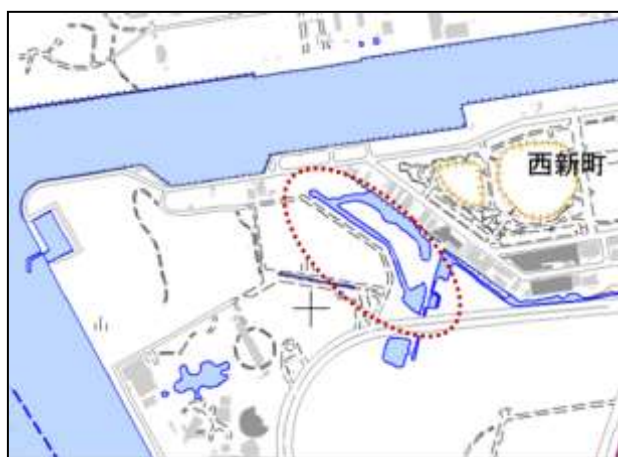


図2．岬町塩性湿地区域

4 調査分野

調査対象分野は、以下の各分野とし、担当専門委員等が調査を実施した。

表1．調査分野

分 野	担当専門委員等
魚介類	嶺井 久勝
植生・植物	中島 健晴
鳥類	永江 和彦
昆虫・クモ類	中嶋 秀利

5 調査方法

調査は現地調査を基本とし、必要に応じて補足調査として聴き取り調査や文献調査等を行うこととした。

確認された生物種は分野ごとに一覧表にまとめた。表中備考欄に記載した記号の意味は以下のとおり。

表2. 表中で使用した記号の意味

記 号	用 語	意 味
I 類	絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種。
I A 類	絶滅危惧 I A 類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
I B 類	絶滅危惧 I B 類	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
II 類	絶滅危惧 II 類	絶滅の危険が増大している種。
準絶	準絶滅危惧	存在基盤が脆弱（弱い）な種で、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
(国)	環境省レッドリスト	環境省レッドリストを示す。
(県)	福岡県レッドデータ	福岡県レッドデータを示す。
特外	特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもので、国が指定したもの。
植 生 植 物 の み	木	木本類 「木本類」の略。木本類とは、形成層が発達し木質化するもので、おおまかにいえば年輪を有するもの。ただし、例外として竹の仲間やつる性のもので年輪が無く、形成層が無くとも木本とするものがある。 ⇒草本類は、形成層が無い、あるいはあまり発達せず木質化しないもの。「木」の記載がないものは全て草本類。 つる性植物については、木質化するものを木本類とし、それ以外を草本類とした。 竹については、木本類とはしなかった。
	外	外来植物 人為的に本来生息しない地域に持ち込まれた植物。国内に移入された年代は諸説あるためここでは移入された年代は問わない（統一された学会の見解が無い為）。
	逸	植栽逸出 人為的に植栽されたものが、野生化して繁殖したもの。一般的に外来植物のうち意図的に持ち込まれたものをさす。

6 調査結果

(1) 魚介類

合計 25 目 50 科 74 種が確認された。区域別では諏訪川河口区域で 21 目 40 科 50 種、塩性湿地区域で 11 目 21 科 36 種が確認された。

表 3. 魚介類の調査結果

魚介類	諏訪川河口区域			塩性湿地区域			合計		
	目	科	種	目	科	種	目	科	種
脊索動物（魚類）	1	2	4	3	3	7	3	4	8
軟体動物（貝類）	10	17	20	6	10	12	11	22	27
棘皮動物（ナマコ）	1	1	1	0	0	0	1	1	1
節足動物（甲殻類）	3	12	15	1	7	16	3	15	28
刺胞動物（クラゲ）	2	2	4	0	0	0	2	2	4
環形動物（ゴカイ）	4	6	6	1	1	1	4	6	6
合 計	21	40	50	11	21	36	24	50	74

表 4. 確認された主な希少野生生物（魚介類）

和 名	種 類
アズキカワザンショウ 	福岡県絶滅危惧Ⅱ類、環境省絶滅危惧Ⅱ類 有明海沿岸の固有亜種であり、生息環境が潮間帯上部のヨシ群落に限定されていることから、環境の変化の影響を受けやすい。 河口のヨシ群落の泥土の表面やヨシの茎の上に生息する。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-）
シオマネキ 	福岡県絶滅危惧種Ⅰ類、環境省絶滅危惧Ⅱ類 全国的にも護岸工事などによる生息地の破壊により急激に個体数が減少している。雄のはさみ脚は左右いずれかが著しく大きく、小はさみ脚は歩脚より小さく、指節の内側に毛を生じてスプーン状を呈する。 内湾・河口域の潮間帯上部にあるやや堅い泥地に穴居する。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-）
ミナミテナガエビ 	福岡県準絶滅危惧種 県内には近似種のテナガエビとヒラタテナガエビが生息する。 成体は河口域から中流域の流れの緩やかな深みに生息する。河口域で産卵し、幼生は沿岸で生活し、稚エビになると淡水域に移動する両側回遊種である。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-）

表5-1. 確認された魚介類

No. 1

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第1回	第2回	第1回	第2回	
脊椎動物 (魚類)	(3目4科8種)	諏訪川河口区域 (1目2科4種)		塩性湿地区域 (3目3科7種)		
ウナギ目	(1科1種)	諏訪川河口区域 (一)		塩性湿地区域 (1科1種)		
ウナギ科	ニホンウナギ				○	I B類 (国)、準絶 (県)
スズキ目	(2科6種)	諏訪川河口区域 (2科4種)		塩性湿地区域 (1科5種)		
ハゼ科	ウロハゼ	○		○		
	マハゼ	○			○	
	シモフリマハゼ			○		
	チチブ			○		
	トビハゼ		○		○	準絶 (国)、I 類 (県)
イソギンポ科	イダテンギンポ	○				
ボラ目	(1科1種)	諏訪川河口区域 (一)		塩性湿地区域 (1科1種)		
ボラ科	セスジボラ				○	
軟体動物 (貝類)	(11目22科27種)	諏訪川河口区域 (10目17科20種)		塩性湿地区域 (6目10科12種)		
二枚貝綱 イガイ目	(1科3種)	諏訪川河口区域 (1科3種)		塩性湿地区域 (一)		
イガイ科	ヒバリガイ	○				
	ホトトギスガイ	○				
	ムラサキイガイ	○				
二枚貝綱 ウグイスガイ目	(1科1種)	諏訪川河口区域 (1科1種)		塩性湿地区域 (一)		
ハボウキガイ科	タイラギ	○				準絶 (国)
二枚貝綱 カキ目	(2科3種)	諏訪川河口区域 (2科3種)		塩性湿地区域 (1科1種)		
イタボガキ科	オハグログキ	○			○	
	ケガキ	○				
ナミマガシロ科	ナミマガシロ	○				
二枚貝綱 フネガイ目	(1科1種)	諏訪川河口区域 (1科1種)		塩性湿地区域 (一)		
フネガイ科	サルボウ	○	○			
二枚貝綱 マルスダレガイ目	(3科3種)	諏訪川河口区域 (3科3種)		塩性湿地区域 (一)		
バカガイ科	バカガイ	○	○			
マテガイ科	マテガイ	○				
マルスダレガイ科	アサリ	○	○			

表5-2. 確認された魚介類

No. 2

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
軟体動物（貝類）（つづき）						
腹足綱（巻貝綱） アマオブネガイ目 （1科1種） 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（1科1種）						
アマオブネガイ科	ヒロクチカノコガイ	○			○	Ⅱ類（県）、準絶（国）
腹足綱（巻貝綱） カサガイ目 （2科2種） 諏訪川河口区域（2科2種） 、 塩性湿地区域（一）						
ユキノカサガイ科	アオガイ	○	○			
ツタノハガイ科	ヨメガカサ	○	○			
腹足綱（巻貝綱） 基眼目 （2科2種） 諏訪川河口区域（一） 、 塩性湿地区域（2科2種）						
オカミミガイ科	オカミミガイ			○	○	Ⅱ類（県、国）
モノアラガイ科	モノアラガイ			○		準絶（国）
腹足綱（巻貝綱） 新腹足目 （3科3種） 諏訪川河口区域（3科3種） 、 塩性湿地区域（2科2種）						
アッキガイ科	アカニシ	○			○	
テングニシ科	テングニシ	○				準絶（国）
ムシロガイ科	アラムシロガイ	○			○	
腹足綱（巻貝綱） 盤足目 （5科7種） 諏訪川河口区域（2科2種） 、 塩性湿地区域（3科5種）						
ニシキウズガイ科	チグサガイ	○	○			
ウミナナ科	ウミナナ	○				準絶（国）
フトヘナタリ科	シマヘナタリ			○	○	Ⅰ類（県、国）
	フトヘナタリ			○	○	準絶（県、国）
	ヘナタリ			○		準絶（国）
トウガタカワニナ科	タケノコカワニナ			○		Ⅰ類（県）、Ⅱ類（国）
カワザンショウガイ科	アズキカワザンショウ			○	○	Ⅱ類（県、国）
多板綱 新ヒザラガイ目 （1科1種） 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（1科1種）						
クサズリガイ科	ヒザラガイ	○	○	○		
棘皮動物（ナマコ） （1目1科1種） 諏訪川河口区域（1目1科1種） 、 塩性湿地区域（一）						
隠足目 （1科1種） 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（一）						
シロナマコ科	シロナマコ	○	○			

表5-3. 確認された魚介類

No. 3

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
節足動物（甲殻類）（3目15科28種） 諏訪川河口区域（3目12科15種） 、 塩性湿地区域（1目7科16種）						
口脚目（シャコ目）（1科1種） 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（－）						
シャコ科	シャコ	○				
十脚目（エビ目）（13科26種） 諏訪川河口区域（10科13種） 、 塩性湿地区域（7科16種）						
アナジャコ科	アナジャコ	○				
オサガニ科	ヤマトオサガニ	○				
クルマエビ科	クルマエビ	○				
コブシガニ科	マメコブシガニ	○	○			
コメツキガニ科	コメツキガニ	○				
	チゴガニ	○			○	
スナガニ科	シオマネキ				○	I 類（県）、II 類（国）
	ハクセンシオマネキ		○	○	○	準絶（県）、II 類（国）
テッポウエビ科	テッポウエビ	○				
テナガエビ科	スジエビ				○	
	イソスジエビ	○	○			
	ミナミテナガエビ			○		準絶（県）
ヌマエビ科	ミゾレヌマエビ			○		
ベンケイガニ科	アカテガニ			○		
	アシハラガニ			○		
	カクベンケイガニ			○		
	クシテガニ			○		準絶（県）
	クロベンケイ			○		
	ハマガニ			○		準絶（県）
	フタバカクガニ			○		
	ユビアカベンケイ			○		
ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	○	○	○	○	
モクズガニ科	ケフサイソガニ			○	○	
	モクズガニ	○				
ワタリガニ科	イシガニ	○	○			
	ガザミ	○				
等脚目（ワラジムシ目）（1科1種） 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（－）						
フナムシ科	フナムシ	○	○			

表5-4. 確認された魚介類

No. 4

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
刺胞動物（クラゲ） 諏訪川河口区域（2目2科4種） 、 塩性湿地区域（－）						
鉢クラゲ綱 ビゼンクラゲ目 諏訪川河口区域（1科2種） 、 塩性湿地区域（－）						
ビゼンクラゲ科	エチゼンクラゲ	○				
	ビゼンクラゲ	○	○			
花足綱 イソギンチャク目 諏訪川河口区域（1科2種） 、 塩性湿地区域（－）						
ウメボシイソギンチャク科	ウメボシイソギンチャク	○				
	ニンジンイソギンチャク	○	○			
環形動物（ゴカイ） 諏訪川河口区域（4目6科6種） 、 塩性湿地区域（1目1科1種）						
イソメ目 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（－）						
ナナテイソメ科	スゴカイイソメ	○	○			
ケヤリ目 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（－）						
カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ sp ^{*)}	○	○			
サシバゴカイ目 諏訪川河口区域（3科3種） 、 塩性湿地区域（1科1種）						
ゴカイ科	ゴカイ（ヤマトカワゴカイ）	○			○	
チロリ科	チロリ	○				
ミズヒキゴカイ科	ミズヒキゴカイ		○			
スビオ目 諏訪川河口区域（1科1種） 、 塩性湿地区域（－）						
ツバサゴカイ科	ツバサゴカイ	○	○			

*) sp：種の正確な名称がはっきりしない場合は、「～の一種」という意味で記している。

2 植生・植物

合計 53 科 151 種の種子植物が確認された。シダ植物は確認されなかった。区域別では諏訪川河口区域で 38 科 96 種、塩性湿地区域で 43 科 109 種が確認された。

表 5. 植物の調査結果

分類群				諏訪川河口区域		塩性湿地区域		合計	
				科	種	科	種	科	種
シダ植物				0	0	0	0	0	0
種子植物	裸子植物			0	0	1	1	1	1
	被子植物	双子葉類	離弁花類	21	44	26	56	32	73
			合弁花類	11	23	10	19	14	32
		単子葉類			6	29	6	33	6
合計				38	96	43	109	53	151

表 7. 確認された主な希少野生生物（植物）

和 名	種 類
ハマサジ 	環境省準絶滅危惧、福岡県絶滅危惧Ⅱ類 円礫を含む砂泥地に生育していることが多い。群落高 0.3m 程度で、密な群落を形成することもある。ハマサジが優占するほか、ハマツナ、ホソバハマアカザ、フクドなどが混生する。ハマサジ群集。河川改修、埋立などにより消失する危険性が高い。 （出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-）
アイアシ 	本種は背が高くなり、1.5m を越えることもある。湿地に群生する姿はヨシにそっくりで、一緒に生えていると一見では区別できないほどである。外見的には、穂が初夏に出ること、それが数本の太い枝だけからなるのははっきりした特徴である。 日本では北海道から九州の各地に生えるが、アシよりは生育地は少ない。 （出典：Wikipedia）

表 8-1. 確認された植物

No. 1

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
種子植物 (5 3 科 1 5 1 種) 諏訪川河口区域 (3 8 科 9 6 種) 、 塩性湿地区域 (4 2 科 1 0 9 種)						
└うち、裸子植物 (1 科 1 種) 諏訪川河口区域 (ー) 、 塩性湿地区域 (1 科 1 種)						
マツ科	クロマツ				○	木
└うち、被子植物 (5 2 科 1 5 0 種) 諏訪川河口区域 (3 8 科 9 6 種) 、 塩性湿地区域 (4 1 科 1 0 8 種)						
└└うち、双子葉類 (4 7 科 1 0 5 種) 諏訪川河口区域 (3 3 種 6 7 種) 、 塩性湿地区域 (3 6 科 7 5 種)						
└└└うち、離弁花類 (3 2 科 7 3 種) 諏訪川河口区域 (2 1 科 4 4 種) 、 塩性湿地区域 (2 6 科 5 6 種)						
アカザ科	アリタソウ				○	外
	シロザ				○	
	ホソバハマアカザ			○	○	
アカバナ科	コマツヨイグサ	○		○	○	外
	メマツヨイグサ		○		○	外
アブラナ科	イヌガラシ	○				
	マメグンバイナズナ	○		○		外
ウリ科	カラスウリ		○		○	
	キカラスウリ	○	○			木
ウルシ科	ハゼノキ	○	○	○		木
	ヌルデ			○		木
オシロイバナ科	オシロイバナ	○			○	外
カタバミ科	イモカタバミ		○			外
	カタバミ	○	○	○	○	
	ムラサキカタバミ		○			外
グミ科	ナワシログミ		○	○	○	木
クスノキ科	クスノキ	○	○	○	○	木
クワ科	イヌビワ	○	○			木
	カナムグラ	○	○			
ケシ科	ナガミヒナゲシ		○			外
スベリヒユ科	スベリヒユ		○			
セリ科	ハマウド			○	○	
	マツバゼリ	○				外
	ヤブジラミ	○	○			
センダン科	センダン	○	○	○	○	木

表 8-2. 確認された植物

No. 2

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
└─離弁花類 (つづき)						
タデ科	アレチギシギシ	○	○			外
	イシミカワ	○	○		○	
	イヌタデ		○		○	
	オオイヌタデ				○	
	ギシギシ			○	○	
	ミチヤナギ	○	○			
ツツラフジ科	アオツツラフジ			○	○	木
ツバキ科	ハマヒサカキ				○	木
ツルナ科	ツルナ			○	○	
トウダイグサ科	アカメガシワ	○	○		○	木
	エノキグサ		○		○	
	オオニシキソウ				○	外
	コニシキソウ				○	外
	ナンキンハゼ	○	○		○	木・逸・外
ナデシコ科	ツメクサ	○				
ニシキギ科	マサキ	○	○	○	○	木
ニレ科	アキニレ	○	○	○	○	木
	エノキ	○	○		○	木
	ムクノキ				○	木
バラ科	ノイバラ	○	○	○	○	木
	シャリンバイ		○	○	○	木
	ソメイヨシノ				○	逸・木
	トキワサンザシ			○	○	木・外
	ナワシロイチゴ				○	木
ヒユ科	イヌビユ	○			○	外
	ヒナタイノコヅチ		○		○	
	ホソバツルノゲイトウ				○	外
フウロソウ科	アメリカフウロ		○			外
ブドウ科	ツタ	○	○			木
	ノブドウ	○	○		○	木
	ヤブガラシ	○	○	○	○	
ブナ科	クスギ				○	木
ホルトノキ科	ホルトノキ				○	木

表 8-3. 確認された植物

No. 3

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
└─離弁花類 (つづき)						
マメ科	アレチヌスビトハギ		○		○	外
	カラスノエンドウ		○			
	クズ		○	○	○	
	ツルマメ				○	
	ニシキハギ				○	
	ネコハギ			○	○	
	ニセアカシア	○	○		○	木・外
	マルバヤハズソウ				○	
	メドハギ			○	○	
	ヤハズソウ				○	
	ヤブマメ			○		
モチノキ科	クロガネモチ			○	○	木
	ナナミノキ				○	木
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○	○			外
ユズリハ科	ヒメユズリハ				○	木
└─うち、合弁花類 (1 4 科 3 2 種) 諏訪川河口区域 (1 1 科 2 3 種) 、 塩性湿地区域 (1 0 科 1 9 種)						
アカネ科	ヘクソカズラ	○	○	○	○	
イソマツ科	ハマサジ			○	○	準絶 (国、県)
オオバコ科	オオバコ		○			
キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	○	○		○	
クマツヅラ科	アレチハナガサ	○	○	○	○	外
	ハマゴウ				○	木
	ボタンクサギ	○	○		○	外
キク科	アキノノゲシ	○				
	アメリカセンダングサ	○				外
	アメリカカタカサブロウ		○			外
	オオアレチノギク				○	外
	オオキンケイギク	○	○		○	特外
	コシロノセンダングサ				○	外
	コセンダングサ	○	○	○	○	逸・外
	セイタカアワダチソウ		○			外
	ヒメジョオン		○			外
	ヒメムカシヨモギ	○				外
	ヒロハホウキギク	○				外
	ホウキギク			○	○	外
	ヨモギ	○	○	○	○	

表 8-4. 確認された植物

No. 4

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
└ーうち、合弁花類（つづき）						
シソ科	イヌコウジュ				○	
スイカズラ科	スイカズラ			○		木
ナス科	オオイヌホオズキ				○	外
	クコ	○	○	○	○	木・逸・外
ノウゼンカズラ科	ノウゼンカズラ		○			木・逸・外
ハイノキ科	クロキ	○	○			木
ヒルガオ科	アメリカアサガオ	○	○			外
	コヒルガオ		○		○	
	ホシアサガオ				○	外
	マルバアメリカアサガオ		○			外
ムラサキ科	キュウリグサ		○			
モクセイ科	トウネズミモチ	○	○	○	○	木・逸・外
└ーうち、単子葉類（6科4 5種） 諏訪川河口区域（6科2 9種） 、 塩性湿地区域（6科3 3種）						
イネ科	アイアシ			○	○	
	アキノエノコログサ		○		○	
	アシ			○	○	
	アキメヒシバ				○	
	イヌビエ				○	
	エノコログサ	○	○		○	
	オヒシバ	○	○		○	
	オオクサキビ				○	外
	カモジグサ	○				外
	ギョウギシバ	○	○		○	
	キンエノコロ		○			
	クシゲメヒシバ				○	
	コメヒシバ		○		○	
	コツブキンエノコロ				○	
	シマスズメノヒエ	○	○			外
	シマダンチク	○	○			外
	シナダレスズメガヤ				○	外
	ジュズダマ		○			
	ススキ	○	○	○	○	
	セイバンモロコシ	○	○		○	外
	タチスズメノヒエ	○	○		○	外

表 8-5. 確認された植物

No. 5

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
―うち、単子葉類 (つづき)						
イネ科 (つづき)	チガヤ		○		○	
	トウチク	○	○			外
	ヌカキビ		○		○	
	ネズミノオ		○			
	ネザサ			○	○	
	ヒメモロコシ	○				外
	ヒメイヌビエ				○	
	メダケ		○			
	メヒシバ	○	○		○	
	メリケンカルカヤ				○	外
	ムラサキエノコロ				○	
カヤツリグサ科	イヌクログワイ			○		
	イヌクグ				○	
	イガカヤツリ				○	
	カヤツリグサ		○		○	
	クグカヤツリ				○	
	ハマスゲ		○		○	
	タマガヤツリ		○			
カンナ科	カンナ		○		○	外・逸
	ダンドク		○			外
ツユクサ科	ツユクサ	○	○		○	
	マルバツユクサ	○	○			外
ヒガンバナ科	ヒガンバナ		○		○	
ユリ科	ノビル		○		○	

(3) 鳥類

8 目 19 科 26 種が確認された。区域別では諏訪川河口区域で 5 目 16 科 21 種、塩性湿地区域で 8 目 15 科 17 種が確認された。

表 9. 確認された主な野生生物（鳥類）

和 名	種 類
ミサゴ 	環境省準絶滅危惧 全長雄約 56～雌 61.5cm。翼開張雄約 147～雌約 168.5cm。 飛翔時は、下面は白く胸部に褐色の帯が目立つ。 猛禽類の飛翔は類似型が多く、高度が高いと識別困難であるが、本種は容易に識別できる。 東日本で夏を過ごしたものは、秋に西日本へ移動してくる。 (出典：福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2001-)
カラスの仲間 	今回の調査区域では、カラスの仲間が最優占種（最も個体数が多い種）だった。 日本で日常的に見られるカラス属のカラスは、留鳥のハシブトガラスとハシボソガラスの 2 種である。日常語ではこれらの全身が黒いカラスを通常は区別することはない。 渡り鳥では、北海道にワタリガラス、九州にミヤマガラスとコクマルガラスが冬鳥として飛来する。

表 10-1. 確認された鳥類

No. 1

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
カイツブリ目	(1 科 1 種)	諏訪川河口区域 (ー)		塩性湿地区域 (1 科 1 種)		
カイツブリ科	カイツブリ				○	
カモ目	(1 科 2 種)	諏訪川河口区域 (ー)		塩性湿地区域 (1 科 2 種)		
カモ科	カルガモ				○	
	コガモ				○	
コウノトリ目	(1 科 3 種)	諏訪川河口区域 (1 科 3 種)		塩性湿地区域 (1 科 1 種)		
サギ科	アオサギ	○			○	
	コサギ	○	○			
	ダイサギ	○	○			

表10-2. 確認された鳥類

No. 2

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
スズメ目	(1 1 科 1 3 種)	諏訪川河口区域 (1 1 科 1 3 種) 、 塩性湿地区域 (8 科 9 種)				
アトリ科	カワラヒワ		○			
ウグイス科	ウグイス	○		○	○	
カラス科	ハシブトガラス	○	○	○	○	
	ハシボソガラス		○		○	
セキレイ科	ハクセキレイ		○			
ツグミ科	イソヒヨドリ		○			
	ジョウビタキ		○		○	
ツバメ科	ツバメ	○		○		
ハタオドリ科	スズメ		○		○	
ヒヨドリ科	ヒヨドリ		○		○	
ホオジロ科	ホオジロ	○		○	○	
ムクドリ科	ムクドリ		○		○	
モズ科	モズ		○			
タカ目	(1 科 2 種)	諏訪川河口区域 (1 科 2 種) 、 塩性湿地区域 (1 科 1 種)				
タカ科	トビ		○		○	
	ミサゴ	○	○			準絶 (国)
チドリ目	(2 科 3 種)	諏訪川河口区域 (2 科 2 種) 、 塩性湿地区域 (1 科 1 種)				
カモメ科	ウミネコ		○			
シギ科	イソシギ				○	
	チュウシャクシギ	○				
ハト目	(1 科 1 種)	諏訪川河口区域 (一) 、 塩性湿地区域 (1 科 1 種)				
ハト科	キジバト			○	○	
ブッポウソウ目	(1 科 1 種)	諏訪川河口区域 (1 科 1 種) 、 塩性湿地区域 (1 科 1 種)				
カワセミ科	カワセミ		○	○	○	

(4) こん虫・クモ類

合計 9 目 55 科 110 種が確認された。区域別では諏訪川河口区域で 9 目 48 科 86 種、塩性湿地区域で 9 目 45 科 75 種が確認された。

表 1 1. 確認された主な希少野生生物（こん虫・クモ類）

和 名	種 類
タイワンウチワヤンマ 	日本では以前は九州南部、四国南部、南西諸島で見られていたが、北東方向に分布域が拡大している。 全長 70-81mm、腹長 48-56mm、後翅長 38-46mm になる。ウチワヤンマと比較して、細い形状で腹部後方のうちわ状の広がり小さく黒い。また、脚に黄斑が無く、全体が黒い。 (出典：Wikipedia)
アオオビハエトリ 	雌雄で大きさや体格はやや異なるが、色などは共通する。雄の方が小型で腹部が小さい。 長は雌で 5-7mm、雄で 4-6mm、体は厚みがあり、歩脚は短め。第 1 脚が大きく、黒い毛を多く持つ。頭胸部と腹部は暗緑色でわずかに金属光沢がある。部中央に幅の広い黒い横帯があるのが目立つ。 地上性の美しい種で、同時にアリを主に狙うことでも知られる。 (出典：Wikipedia)

表 1 2 - 1. 確認されたこん虫・クモ類

No. 1

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
カマキリ目	(1 科 2 種)	諏訪川河口区域 (1 科 2 種)		塩性湿地区域 (1 科 2 種)		
カマキリ科	オオカマキリ	○		○	○	
	ハラビロカマキリ	○		○	○	
カメムシ目	(6 科 9 種)	諏訪川河口区域 (4 科 5 種)		塩性湿地区域 (6 科 9 種)		
アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ			○		
アメンボ科	アメンボ			○	○	
カメムシ科	アオクサカメムシ	○		○		
	クサギカメムシ			○		
セミ科	クマゼミ	○		○		
	ニイニイゼミ	○		○		
ホソヘリカメムシ科	クモヘリカメムシ			○		
	ホソヘリカメムシ	○	○	○	○	
マルカメムシ科	マルカメムシ	○	○	○	○	

表12-2. 確認されたこん虫・クモ類

No. 2

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
コウチュウ目 (6科10種) 諏訪川河口区域 (4科5種) 、 塩性湿地区域 (6科8種)						
カミキリムシ科	ゴマダラカミキリ			○		
	ベニカミキリ			○		
クワガタムシ科	コクワガタ			○		
	ヒラタクワガタ	○				
ゲンゴロウ科	ハイイロゲンゴロウ			○		
コガネムシ科	シラホシハナムグリ			○		
	ヒメコガネ	○		○		
テントウムシ科	ナナホシテントウ	○	○			
	ナミテントウ	○		○	○	
ハムシ科	クロウリハムシ		○	○		
チョウ目 (12科30種) 諏訪川河口区域 (12科25種) 、 塩性湿地区域 (10科19種)						
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ			○	○	
	アゲハチョウ	○		○		
	ナガサキアゲハ			○		
	モンキアゲハ	○				
イラガ科	ヒロヘリアオイラガ	○	○		○	
ウラギンシジミ科	ウラギンシジミ		○	○	○	
シジミチョウ科	ウラナミシジミ		○		○	
	ツバメシジミ		○			
	ベニシジミ				○	
	ムラサキシジミ			○		
	ヤマトシジミ	○	○	○		
	ルリシジミ		○			
シロチョウ科	キチョウ		○	○	○	
	スジグロシロチョウ		○			
	モンキチョウ	○				
	モンシロチョウ	○	○	○	○	
ジャノメチョウ科	クロコノマチョウ		○			
スズメガ科	ホシホウジャク		○		○	
セセリチョウ科	イチモンジセセリ	○	○	○	○	

表 12-3. 確認されたこん虫・クモ類

No. 3

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
チョウ目（つづき）						
タテハチョウ科	アカタテハ	○	○		○	
	イシガキチョウ		○		○	
	キタテハ				○	
	タテハモドキ		○	○	○	
	ツマグロヒョウモン		○			
	ヒメアカタテハ	○	○			
	ルリタテハ		○			
ドクガ科	チャドクガ		○	○	○	
マダラガ科	ホタルガ		○			
ミノガ科	シバミノガ	○				
	チャミノガ	○	○	○	○	
トンボ目（4科12種） 諏訪川河口区域（2科7種） 、 塩性湿地区域（4科11種）						
イトトンボ科	アオモンイトトンボ			○	○	
	クロイトトンボ			○		
サナエトンボ科	タイワンウチワヤンマ			○		
トンボ科	ウスバキトンボ	○		○	○	
	オオシオカラトンボ	○		○		
	コシアキトンボ			○		
	コフキトンボ			○		
	シオカラトンボ	○		○		
	ショウジョウトンボ	○				
	ノシメトンボ		○		○	
ヤンマ科	カトリヤンマ		○		○	
	ギンヤンマ		○	○	○	
ハエ目（6科7種） 諏訪川河口区域（5科6種） 、 塩性湿地区域（1科1種）						
イエバエ科	イエバエ		○			
クロバエ科	キンバエ	○	○			
ショウジョウバエ科	ショウジョウバエ		○			
ニクバエ科	センチニクバエ			○		
ハナアブ科	ハナアブ	○	○			
	ホソヒラタアブ	○	○			
ムシヒキアブ科	マガリケムシヒキ	○				

表 12-4. 確認されたこん虫・クモ類

No. 4

科 名	種 名 (和 名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備 考
		第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	
ハチ目 (3科8種) 諏訪川河口区域 (3科7種) 、 塩性湿地区域 (3科5種)						
アリ科	アミメアリ		○		○	
	トビイロシワアリ		○			
スズメバチ科	オオスズメバチ	○	○	○		
	コガタスズメバチ	○	○		○	
	フタモンアシナガバチ			○		
ミツバチ科	キムネクマバチ	○				
	セイヨウミツバチ	○	○		○	
	ニホンミツバチ		○			
バッタ目 (5科10種) 諏訪川河口区域 (5科10種) 、 塩性湿地区域 (5科7種)						
イナゴ科	ツチイナゴ	○	○	○	○	
オンブバッタ科	オンブバッタ	○	○	○		
キリギリス科	キリギリス	○		○		
	サトクダマキモドキ		○			
	ササキリ	○	○		○	
	セスジツユムシ		○			
バッタ科	イボバッタ	○	○			
	ショウリョウバッタ	○		○		
	トノサマバッタ	○		○		
ヒシバッタ科	ヒシバッタ	○		○		
クモ形綱 クモ目 (12科22種) 諏訪川河口区域 (12科19種) 、 塩性湿地区域 (9科13種)						
アシナガグモ科	アシナガグモ	○			○	
	チュウガタシロカネグモ	○				
	ヤサガタアシナガグモ	○		○		
ウズグモ科	ウズグモ	○				
カニグモ科	ハナグモ			○		
	ヤミイロカニグモ	○				
	ワカバグモ	○				
コガネグモ科	コガネグモ	○	○	○	○	
	ゴミグモ				○	
	ドヨウオニグモ	○				
	ナガコガネグモ		○	○		
コモリグモ科	ウズキコモリグモ	○		○		
ササグモ科	ササグモ		○	○		
ジグモ科	ジグモ		○	○	○	
ジョロウグモ科	ジョロウグモ		○	○	○	

表 12-5. 確認されたこん虫・クモ類

No. 5

科名	種名 (和名)	諏訪川河口区域		塩性湿地区域		備考
		第1回	第2回	第1回	第2回	
クモ形綱 クモ目 (つづき)						
タナグモ科	クサグモ		○			
ハエトリグモ科	アオオビハエトリ		○		○	
	アリグモ	○	○			
	ネコハエトリ				○	
ヒメグモ科	オオヒメグモ	○				
	ツリガネヒメグモ	○				
フクログモ科	ヒメフクログモ	○		○		

7 まとめ

今回の調査では、のべ 189 科 383 種の生物が確認された (表 13 参照)。

表 13. 調査結果まとめ

	諏訪川河口区域			塩性湿地区域			合計		
	目	科	種	目	科	種	目	科	種
魚 介 類	21	40	50	11	21	36	24	50	74
植生・植物		38	96		42	109		53	151
鳥 類	5	16	21	8	15	17	8	19	26
こ ん 虫	9	48	86	9	45	75	9	55	110
ク モ 類	1	12	19	1	9	13	1	12	22
合 計		154	272		132	250		189	383

また、魚介類を中心に 20 種の希少野生生物が確認された (表 14 参照)。

表 14. 確認された希少野生生物まとめ

	I 類 (国)	IB 類 (国)	II 類 (国)	準絶 (国)	その他
魚 介 類	シマヘナタリ	ニホンウナギ【準絶】	オカミガイ【II類】 タケノコカワニナ【I類】 アズキカワザンショウ シオマネキ【II類】 ハクセンシオマネキ【準絶】	トビハゼ【I類】 タイラギ ヒロクチカノコガイ【II類】 モノアラガイ テングニシ ウミナ フトヘナタリ【準絶】 ヘナタリ	ミナミテナガエビ クシテガニ【準絶】 ハマガニ【準絶】
植生・植物					ハマサジ【準絶】
鳥 類					ミサゴ【準絶】

※ 表中各列のタイトルは環境省のレッドリストの分類を表し、【】内は、福岡県のレッドデータの分類を表す。

今回は、干潟環境を中心とする区域の調査を行った。2 年間にわたりながらも、調査回数は各分野 2 回程度にとどまったものの、魚介類を中心に 20 種の希少野生生物、1 種の特定外来生物を含む 383 種の生物を確認できた。

今後、干潟環境の状況についてさらに把握を進めるためにも、さらなる調査の積み重ねが求められる。

発 行 日／平成26年 3 月

編集・発行／大牟田市環境部環境保全課

〒836-8666 大牟田市有明町 2 丁目 3 番地

TEL : 0944 (41) 2721 FAX : 0944 (41) 2722